



▲天王寺干蕪 日本山海名産図会／国立国会図書館蔵

野沢温泉ではだれもが知る天王寺蕪
 今月10日(木)、四天王寺境内で、ある石碑の除幕式が行われます。それは、野沢菜の起源は「天王寺蕪」であることを後世に伝える記念碑で、長野県野沢温泉村が建立します。

「天王寺蕪は大阪府が認証した『なにわの伝統野菜』のひとつです。糖度は一般のカブの2倍以上と甘みが強く、肉質が緻密で平べったい形をしています。大阪では知名度がいまひとつでも、実は野沢菜で有名な野沢温泉村ではだれもが天王寺蕪をご存知です。村のパンフレットや野沢菜のしおり、種の袋、あらゆるもの



野沢菜の親が
 天王寺に？

守り伝えたい 伝統ある食文化



▲天王寺蕪の会事務局長 難波りんごさん

に、野沢菜のルーツは天王寺蕪と詳しい歴史が紹介されているんです」
 そう語るのには、天王寺蕪の普及活動を行う天王寺蕪の会事務局長の難波りんごさん。難波さんに天王寺蕪や野沢菜について伺いました。

「名物や蕪の中の天王寺」

与謝蕪村

「此頃は蕪曳くらん天王寺」

正岡子規
 「俳句や狂歌に詠まれるほどに、かつて天王寺蕪のおいしさは全国区でした」

難波さんは、昔からある大阪の特産物を調べる中、『天王寺村誌』(大正14年発行)を見て天王寺蕪を知りました。天王寺村は、今の天王寺区南部や阿倍野区北部にあたります。

「村の特産物でとてもおいしかったが、明治35、36年に虫害で絶滅、今



▲天王寺蕪の花

は名のみ残る」と記録されています。栽培されていたのは江戸時代から約300年。干し蕪や粕漬に加工されたことで全国に広まりました」
 当時いかに地元でも愛されていたか、その名残は身近なところで見られます。

「明治7年創立の天王寺小学校の校章は、天王寺蕪を模したデザインです。大江小学校もそう。明治初期にはまだ蕪畑が広がっていたんでしょうね」

気候風土の違いで大変身？

平成7年、天王寺蕪の情報を募っていた難波さんのもとに、料理研究家で信州出身の宮田房子さん(故人)から驚きの情報が寄せられます。宝暦6(1756)年、野沢温泉村にある健命寺の八代目住職晃天園瑞和尚が京都遊学の折、天

王寺蕪を食べてあまりにおいしかったため種を持ち帰り、栽培したのが野沢菜の始まりという寺伝です。

「温暖な関西に比べて信州は雪も降る高冷地です。気候風土が違うのでカブの部分は小さく、葉や茎が立派に育ちました。当初は『蕪菜』と呼ばれ、やがて野沢菜として全国に広まりました。それを知って、あの野沢菜の祖先だったとは！と感激でした。宮田さんは『天王寺蕪が野沢菜の親と聞いて育ち、やっと天王寺蕪に会える』と大阪に嫁いで来たら、どこにもなかった」と

そんな天王寺蕪ですが、平成8年に住吉区で細々と栽培されていたことが分かり、大勢の力で、なんとか奇跡的に復活することができました。

深まる野沢温泉村との交流

その後、天王寺蕪の会が発足し、野沢温泉村との交流も盛んになります。平成21年と平成25年には「野沢菜伝来の街道ウォーキング」が野沢温泉観光協会主催で開催されました。

「野沢菜の伝統を守った先人への感謝を次世代に伝えたいと、四天王寺から野沢温泉村まで種が伝来したルートを、一緒にリレー形式で歩きました。1回目は旧中山道を経て長野へ、2回目は滋賀から北陸回りで、600kmを30日間かけてたどりました。当時の天王寺区長も出席式に参加されていますよ」

野沢温泉村の富井俊雄村長がお越しになりました

10月5日(水)、野沢温泉村の富井俊雄村長が当区を表敬訪問されました。
 現在の野沢温泉村は昭和31年9月に市川村と合併し、今年60周年を迎えています。
 その記念事業の一つとして、四天王寺に「野沢菜伝来記念碑」が建立されることになりました。

野沢菜伝来記念碑 除幕式

日時 11月10日(木) 16:00から

場所 四天王寺 聖霊院寅之門前(四天王寺1-11-18)

問合せ 市民協働課(シティ・プロモーション室)
 ☎ 6774-9734



▲左から 野沢温泉観光協会 森行成会長、野沢温泉村 富井俊雄村長、西山忠邦区長、阿倍野区 宝田啓行区長



▲「あべのハルカス」にあるレストラン「COOKA(クワカ)」に飾られた天王寺蕪の壁画

地域の歴史と良さを伝えたい

カブの旬は、ちょうどこの時季です。歴史ある天王寺蕪を味わうにはどうすればよいでしょう。

「近頃は道の駅や百貨店などで青果や漬物として販売されるようになりました。四天王寺では節分会に無病息災と厄除開運を祈る『天王寺かぶら汁』が祈禱された記念品と共に、1食1000円で振る舞われますよ」

在来種の野菜は栽培に手間がかかり、不揃いで、生産者の苦勞も多いとのこと。

「天王寺蕪は味が濃厚でおいしい。野沢温泉村では歴史も含めて野沢菜を大切にされ、260年もの間守つてこられました。私たちももつと地元の食文化に誇りを持ちましよう。大阪の歴史と魅力を見直し、かけがえない伝統や文化を大切に守り伝えていきたいですね」

目次

- クローズアップ天王寺 天王寺蕪……………2
- 子育て情報……………5
- お知らせ……………3
- イベント情報……………6
- 保健衛生……………4
- わがまち天王寺……………8
- おおさか掲示板……………9
- 子育て愛あいフェスティバル／真田まつり／緑化講習会・緑花ボランティア……………12